



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：LNG タンカーの沖止め

(7月11日付現地紙)

7月11日付現地紙は、ロイター電を引用して、37隻（うち、25隻がカタール船籍）のLNGタンカーがアラブ首長国連邦フジャイラ沖で沖止めされていると報じている。

1. 当該地最大のLNG輸出国であるカタールが、これまでに例を見ないほどのLNGをLNGタンカーに積載して、フジャイラ沖に沖止めしていると、複数の貿易業者およびアナリストが推察している。沖止めの目的は、LNG需要が弱含みとなっている現状および冬に向けて天然ガス価格が上昇するであろうことを見越して供給を抑えるためである。また、供給を抑えることにより、巨大なガス輸出者が世界の天然ガス市場を支配できるとの考え方がある、と複数関係者は発言している。あるアナリストは、海上にあるこれらのLNGタンカーは、LNGの供給を抑えるため、大部分が空荷であろう、とコメントしている。
2. 船舶関係者は、今回のフジャイラ沖で沖止めされているのは、現在メンテナンス中のカタールのLNG生産設備から本来生産されるLNG用のタンカーか、もしくは、生産が開始されていないラスラファンの新たなプロジェクトから生産されるLNG用のタンカーであり、LNG生産設備の稼動が遅延することにより、LNGタンカーの積載能力が過剰になっている、と発言している。
3. 7日現在で、フジャイラ沖では、37隻のLNGタンカーが沖止めされており、そのうち25隻までは、カタール産LNGを輸送するタンカーである。同タンカーの所有者はカタールガスおよびラスラファンガスである。
4. LNG市場は今年、供給過剰が見通されており、カタールはLNG生産設備の定期的なメンテナンスの時期の繰上げ、および新たな生産ラインの来年年初までの稼動遅延による生産抑制を図っている。これとLNGタンカーの沖止めによる供給抑制により、需要と供給のバランスを取ろうとしている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799